

令和8年度 学力向上のための重点プラン【小学校】新宿区立東戸山小学校

■ 学校の共通目標

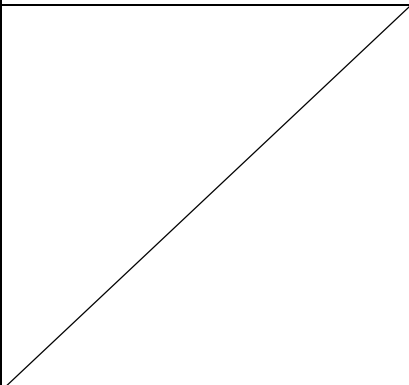
【HP公開用・様式1・令和8年5月20日】

授業作り	<p>重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が「話したくなる」「聴きたくなる」視点に立った課題の設定と授業の工夫。 ・ペア・トリオ・グループ等、効果的なグループワークの効果的な設定。 ・タブレット端末、電子黒板等のICT機器やホワイトボード・付箋・思考ツールなどを活用した思考の可視化や共有化。 ・「問い」を大切にし、主体的・対話的な学習過程を大切にしたいワクワクする授業の展開。
環境作り	<ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感を育む教育を推進するため、学団制や教科担任制を取り入れ、複数の教員が児童と関わる機会の設定児童理解を深め、一人ひとりに応じた指導・支援。 ・児童が見通しをもって学習に取り組めるよう、「ヒガトのきまり」などをスライド化し、いつでも確認できる環境の整備。 ・パワーアップタイムを活用し、国語・算数の基礎的・基本的な内容の定着及び情報モラルや読書活動、研究とからめたSSTなどに取り組む活動時間の設定。 ・学級ソーシャルスキルの実践や書籍を参考にした人との関わり方やルール・マナーについて学ぶ機会の設定。相手の話を聴いたり受け止めたりする力の育成による、よりよい人間関係の構築。

■ 学年の取組について

学年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		<ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆を正しく持ち、文字を正しく書く力を身に付ける。 ・人の前で、自分の考えを適切な声の大きさと最後まで発表できるようにする。 ・数に対する理解を確実にする。 ・姿勢、発表の仕方や聞き方など学習の基本や決まりを身に付ける。 ・タブレット端末の基本操作ができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文字の学習時間・機会の確保。 ・発表の機会の確保と充実。 ・具体物や数ブロックなどの半具体物の活用。 ・デジタルドリルやデジタル教科書の活用。 ・姿勢保持などの基本的な学習態度の繰り返し指導。 ・タブレット端末の使い方について分かりやすい指導、活用機会の充実。
2 学 年		<ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆の持ち方や学習中の姿勢などの基本的な学習方法を身に付ける。 ・文字を正しく書く力を身に付ける。 ・人の前で、自分の考えが適切な声の大きさと発表できるようにする。 ・数に対する理解を確実にする。 ・基礎的な計算を正確に行う力を身に付ける。 ・タブレット端末の基本操作ができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢保持などの基本的な学習に臨む態度の指導の充実。 ・文字の学習時間や機会の確保。 ・発表の機会の確保と充実。 ・学習内容習熟のためのデジタルドリルの活用。 ・タブレット端末の基本的な操作方法や管理方法の習得。

<p>3 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の基礎的・基本的な内容について、定着に個人差見られる。 ・自分から学習方法を考えて取り組むことが難しく、学習の進め方について教師の支援を必要とする児童が多い。 ・発言意欲の高い児童が多く、授業では進んで発表する姿が見られる。一方で、自分の考えを整理して話すことに課題が見られる。 ・漢字の読み書きや計算の基礎的・基本的な内容について、定着に差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙を増やし、言葉の正しい意味を知り、相手が話している内容を正確に理解する力を育成する。 ・文字を書く力や文章を書く力を身に付けさせる。 ・漢字を正しく書き、覚え、授業や生活の中で活用できるようにする。 ・四則計算の基礎・基本を身に付ける。九九を定着させる。問題を決められた時間内に継続して解けるようにする。 ・話し合いの機会を多く確保し、多くの児童が学習に参加しやすい状況を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話の内容の理解を深めるための説明を工夫する。視覚的に提示し、支援する。 ・相手に伝わりやすいように、短く、端的に話す指導。 ・漢字や計算の基礎・基本の定着を図るため、漢字ドリルと計算ドリル・デジタルドリルの活用。 ・話型の活用、話し合いや発表形態の工夫。
<p>4 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な学習内容については定着している児童が多いが、文章を読み取って考えたり、自分の考えを表現したりする力に個人差が見られる。 ・学習に意欲的に取り組む児童が多い一方で、既習事項を活用して新しい学習につなげることに課題が見られる。 ・話を聞いて、どのように学習に取り組むのか具体的な方法が分からない児童がいる。 ・進んで発言する子は多いが、自分の考えを整理して伝える力の向上が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の力で話を聞き、行動に移せるようにする。 ・言葉の意味を知り、相手が話している内容を正確に理解できるようにする。 ・自分の考えを文章で書く力を身に付けさせる。 ・漢字を正しく書き、覚え、授業や生活の中で活用できるようにする。 ・計算は早く正確に答えが出せるようにする。また、決められた時間内に課題が継続して解けるようにする。 ・ノート指導や振り返り活動を通して、自分の学びを整理できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話の内容の理解を深めるために簡単な言葉での説明の工夫。 ・相手に伝わりやすいように、短く、端的に話す指導。 ・電子黒板や、書画カメラに具体物を映し出すなど、イメージ化する工夫。 ・漢字の定着を図るための漢字練習と漢字テストの確認・デジタルドリルの活用による繰り返し練習。 ・話型の活用、話し合いや発表形態の工夫。 ・ノートの効果的な活用や日記等、書く場面の充実。
<p>5 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の内容を読み取り、自分の考えをまとめる力については個人差が見られ、語彙力や読解力の向上が必要である。 ・漢字の字形を捉え、正確に書くことができる児童もいるが、十分にできていない児童も多い。 ・基本的な四則計算でつまづく児童がいる。大きな数のかけ算では、九九、繰り上がり、足し算などを正しく計算することに課題がある児童が多い。 ・図形の特徴を理解している児童は多いが、既習事項を活用して考える力や、正確に作図する力の向上が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の中心や段落相互の関係を整理しながら読み取る力の向上を図る。 ・既習漢字の読み書きを、デジタルドリルと書くドリルを活用し定着させる。 ・立式する際、図・言葉・式を用いて、説明することを日頃から行う。 ・基本的な知識・技能の定着を図る。 ・図形の特徴を理解し、既習事項を活用して考える力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書活動や要約活動を取り入れ、語彙力や読解力の向上を図る。 ・相手に考えや意見を伝える話型の活用。 ・話を落ち着いて聞く態度の育成。 ・パワーアップタイムにおけるタブレット端末の活用。(デジタルドリルの活用。) ・自分の考えや意見を文章化したり、発表したりする機会を継続的に設定する。 ・タブレット端末のカルテ機能活用による定着度の管理。 ・デジタルドリルのAI機能活用を活用した補習及び復習の機会設定。

<p>6 学 年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・言語の知識・技能については比較的定着しているが、文章の内容を正確に読み取ったり、要点を整理したりする力の向上が必要である。 ・自分の考えをもっている児童が多いが、理由や根拠を明確にして論理的に表現する力の向上が必要である。 ・算数では、基本的な知識・技能が身に付いている児童が多いが、個人差が大きい。また、既習事項を活用して考える問題や文章題に課題が見られる。 ・学習に意欲的に取り組む児童が多い一方で、主体的に学習を進める力は個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の中心や要点を整理しながら読み取る力の向上を図る。 ・自分の考えを理由や根拠を明確にしながら、順序立てて分かりやすく表現する力を育成する。 ・小数や分数を含む計算を正確に行い、文章題へ活用できる力の向上を図る。 ・デジタルドリルを活用し、基礎的・基本的な内容の定着を図る。 ・既習事項を活用し、自ら課題を見付けて解決に取り組む力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書時間の確保。 ・作文の書き方の基礎・基本の指導。 ・要約文を書く場面の設定。 ・発表の機会の確保と充実。 ・話し合い活動、意見交流の充実。 ・デジタルドリルの活用。 ・児童一人ひとりに即した課題の設定。 ・振り返り時間の確保。 ・三角定規、分度器、コンパスなどの道具の適切な使い方の指導。 ・每日一問の取組や基本的な計算練習の日々の取組。
<p>特 別 支 援</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人ひとりの実態に応じた支援を行い、基礎的・基本的な内容の定着を図る。 ・学習したことを生活場面の中で活用できる力を育成する。 ・対話や交流活動を通して、コミュニケーション能力やソーシャルスキルの向上を図る。 ・見通しをもって主体的に学習や生活に取り組める力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語や算数などで学んだことを、生活場面を想定した学習活動に生かし、実践的に学ぶ機会を設定する。 ・実態に合わせた学習グループの編制。 ・タブレット端末やICT機器の活用。 ・学級内たてわり班活動、異学年交流など、意図的に関わる機会の充実。